



●光に向かって一直線

ーダツの仲間ー

新年あけましておめでとうございます。今年亥年です。イノシシというと猛々しいイメージがあります。「猪突猛進ちよとつもうしん（＝一つのことに向かって猛烈もうれつな勢いで突き進むこと）」という言葉があるくらいですから、昔からイノシシはそういう印象なのでしょう（たしかに最近もイノシシに襲われたとか街中に現れたイノシシが大暴れしたとかいうニュースが報道されています）。けれども、海の中にもイノシシに負けないくらい猪突猛進する生き物がいます。今回は、その生き物、ダツの仲間を紹介します。

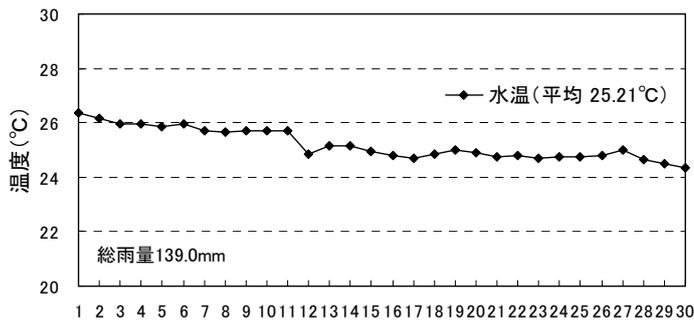
みなさんのほとんどはダツを見知っていると思いますが、知らない人のために簡単に説明すると、ダツは大きいものでは体長が1mにもなる細長い魚で、何よりも特徴的なのは、口先がとても長く鋭いことです。口の長い魚には、このほかにもヤガラやヨウジウオ、サヨリの仲間などがいますが、ヤガラやヨウジウオの

仲間は、確かに口が長いのですが、開閉できる本当の口は先端の小さな部分だけです。サヨリの仲間のほとんどは下あごが長く突き出ているだけです。それに対してダツの仲間は、上下両方のあごが長く伸びているので開閉する口の部分がとても大きく、そこにはとがった歯が並んでいて、この口を使って小魚を食べてくらしています（余談ですが、阿嘉港には、冬になるとミジュン（和名ミズン）が入り込んできて、それを追ってよくダツも入ってきていたのですが、ここ2年はミジュンが来ないせいか、大きなダツも港内では見かけていません）。

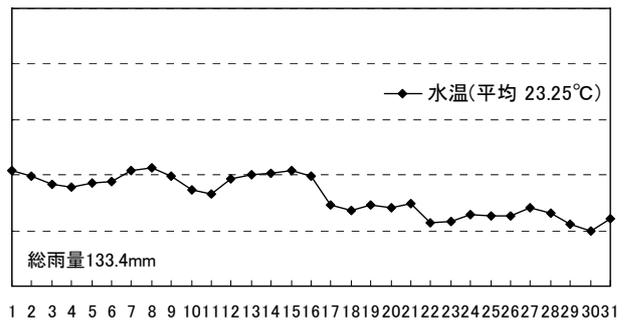
さて、イノシシの猪突猛進もやっかいです。夜、海に入る人たちは良く知っていると思いますが、このダツの仲間は光に向かって突進する性質があるのです。つまり、人が照らしたライトに向かって突っ込んで来るのです。頭の丸い魚だったとしても、体長1mもあるものに勢い良くぶつかられるとケガをしてしまいますが、先ほど書いたようにダツは長く鋭い口先を持っているので、ぶつかると同時にこれが人に突き刺さってしまうのです。もちろん、場所によっては人が死ぬこともあります。沖縄近海には、ダツの仲間は6種ほどいるのですが、その中でもテンジクダツ、ハマダツ、オキザヨリの3種が特に危険だと言われます。しかし、

定点観測

2006年 11月



2006年 12月



ちょっと見ただけでは種をはっきりさせるのはなかなか難しいので、とりあえずダツを見たら気をつけるに越したことはありません。残念ながら、肝心のダツの動きと光との関係にはまだわからないことが多いらしいのですが、襲^{おそ}われなためには次の2つのことに気をつけると良いようです。

まず、(1) 水面から水深3mまでの範囲では、ライトを水平には照らさないこと。ダツは主に水面の近くを泳ぎまわっているため、その付近が最も危険と言えます。ですから、そこではライトを真下に向けておくなどして、ダツの目に光が入らないようにしなければなりません。そして、2つ目は(2) ダツを驚^{おどろ}かせないこと。過去の例を見ると、ライトを急に動かしたり、人が追い込んだりして驚かせた結果、猛烈な勢いで泳ぎ出し、時に人に衝突しています。ですから、できるだけダツを驚かせないようにしなければなりません。

出会う機会を考えるとサメよりも危険なダツですが、その一番近い仲間は、サンマです。そういえば、口先の長さを除けば、形も色もその姿はとても良く似ています。そして、それだけではなく、ダツとサンマは産卵の様子も似ていて、ダツが沿岸に生えた海藻で、サンマが流れ藻という違いはありますが、両方とも海藻に糸のついた卵を産み付けるのです。

サンマの産卵期は春と秋と言われていますが、ダツはどうなのでしょう。本州周辺にすむ種では初夏らしいのですが、沖縄近海の種の産卵期ははっきりわかりませんでした。「12~2月に産卵し、その時期には大群を作る」と書かれた資料が1つあるだけです。ご存知の方がいらしたら、ぜひ教えてください。ともあれ、夜の海でダツの大群には会いたくないものです。

年の初めから、物騒な話が多くて申し訳なかったのですが、ダツたちのように海の生き物の中には大変危険な一面を持つものがあることは事実です。そうした生き物たちの性質を頭に入れて、安全に注意しながら、今年も海の生き物たちをながめてみてください。

● 阿嘉島の海より

1月7日(日)、阿嘉島の離島振興総合センターで座間味村の成人式が行われました。今年も座間味、阿嘉、慶留間から11人の成人が出席し、盛大な式となりました。青年会や婦人会、子供達による余興もたくさんおこなわれ、みんなで島の新たな成人をお祝いしました。

